



【訪問介護職員（とじこもり対応）編】

■ 悪い対応

夫を1年前に亡くし、現在1人暮らしの佐々木さん。近くに住む長男の妻が時々訪ねる他介護保険を使用して、週に数回、訪問介護サービスをお願いしています。これまでは、孫の世話を頼まれることもありましたが、今では孫の成長によってそれもなくなりました。最近、頻繁に疲れたと口走るようになり、とじこもりがちな日々を送っています。

長男の妻：じゃあどうぞ

訪問介護員：こんにちは。町のヘルパーステーションの佐藤です。

長男の妻：いつもありがとうございます。おばあちゃん、ヘルパーさんがきてくれたわよ。

佐々木：こんにちは。

訪問介護員：体調はどうですか。

長男の妻：おばあちゃん、最近外に出たがらなくなっちゃって。

佐々木：そうだね。なんだか疲れてしまってるねえ。

訪問介護員：疲れやすいんですか。

佐々木：そうなんだよ。日中横になっていたりしてね、

訪問介護員：寝てばかりいたら、運動不足になって、かえって大変になりますから、時々外出したりしないとだめですよ。



佐々木：一人で外に出たって、つまらないよ。前はじいさんがいて（夫）いろいろ一緒に出掛けては、なんだかんだと大騒ぎしてはいたけど、今はそのじいさんもいないから、つまらないよ。

訪問介護員：つまらないって言うても、おじいさんが帰ってくるわけではないんですから。



長男の妻：おじいちゃんとおばあちゃんは、いつも一緒だったんです。おじいちゃんが亡くなったときは、本当に辛そう。身内の私たちが声をかけるのも気の毒だったくらいなんです。

佐々木：どんなに、一緒に連れて行ってほしいかと思ったくらいなんだ。さみしいよ。

訪問介護員：そうだったんですね。でも1年も前のことですよね。そろそろ、現実をみて、生きてください



佐々木：現実って、じいさんはいない、今まで頼ってきてくれた孫も、もう最近はお家によることもなくなって、私はひとりぼっちだ。あとは、じいさんのお迎えの来るのを待つばかり。長生きしていても仕方がないから、毎朝、じいさんに手を合わせて、早く迎えに来てくださってお願いしているんだ。



長男の妻：最近、いつもこういう話ばかりなんです。死にたいとか、迎えに来てほしいとか。



訪問介護員：佐々木さん、
迎えに来てほしいなんてバカなことばかり言って、

お嫁さん困っていますよ。

さみしく感じるのも、気の持ちようです。おじいさん亡くなって1年も経つんですから、元気になってもいい頃ですよ。

お友達に会ったりとかね。



佐々木：友達って…、私ひとり…、会ったところでしょうがない…



訪問介護員：会ってみなきゃわからないですよ。
また元気に戻れると思いますよ。がんばってください。

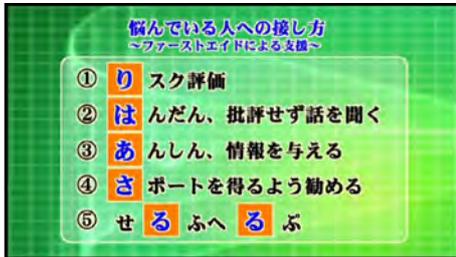
佐々木：頑張るって言ったってね。



訪問介護員：ところで、今のところは、生活を送る上で支障がないようですから、いいんじゃないでしょうか。
今日も、いつものとおり、お掃除のお手伝いして、お食事つくりますね。

佐々木：はあ……





■良い対応

夫を1年前に亡くし、現在1人暮らしの佐々木さん。近くに住む長男の妻が時々訪ねる他介護保険を使用して、週に数回、訪問介護サービスをお願いしています。これまでは、孫の世話を頼まれることもありましたが、今では孫の成長によってそれもなくりました。最近、頻繁に疲れたと口走るようになり、とじこもりがちな日々を送っています。

長男の妻：じゃあどうぞ。

訪問介護員：こんにちは。町のヘルパーステーションの佐藤です。

長男の妻：いつもありがとうございます。おばあちゃん、ヘルパーさんがいらっしやいましたよ。

佐々木：こんにちは。

訪問介護員：今日も、掃除とお食事を作りに参りました。

佐々木：そうかい。それはありがとうね。

訪問介護員：体調は、いかがですか？

長男の妻：ヘルパーさん、最近、おばあちゃん、本当に外に出なくなってしまうと、私、心配しているんです。

佐々木：なんだか疲れてしまっただけ。

訪問介護員：そうでしたか。疲れやすいんですね。

最近お元気がないので、お身体の調子はどうかなあとか、お気持ちの方はどうかなと心配していました。

佐々木：はい。あまり元気がでないんだよね。一日中横になっていたりしてね。調子も今一つだから、及川先生のところまで血圧の薬をもらってはいてね。でも、先生のところに通うのも少し歩かないといけなから、大変だね。

訪問介護員：歩くのも大変なんですね。

佐々木：そうだね、体調悪いからねえ。

訪問介護員：それは大変ですよ。その他に具合悪いところはないですか。

佐々木：いや、なんとか他はね。食べてるし、ほら、この人に作ってもらったりしているからね。でも、この人も家のことあるから、あまり迷惑もかけられないから、あなたが来てくれていて助



かっています。

訪問介護員：そうでしたか。私が伺わない日とかは、日中、おひとりで過ごしますか。

佐々木：そうだねえ。

訪問介護員：どんなふうに過ごしていますか。

佐々木：ただ横になっていたりね、具合悪いから。

訪問介護員：そういう時、お一人だと心細いですかね。

佐々木：心細いっていうか、一人でさびしいねえ。前はじいさんがいて、なんだかんだと大騒ぎしてはいたけど、一緒にいてくれたからね。だいぶ静かになってねえ。

訪問介護員：そうでしたか。さびしいですよ。

佐々木：そうだね。50年も一緒に暮らしたからねえ。

訪問介護員：50年ですか。ご主人はどんな方だったんですか。

佐々木：元気だね…あっちにいくぞ、こっちにいくぞってね。私のこと病院に連れて行ってくれたりね。

訪問介護員：ずいぶん優しいご主人だったんですね。

佐々木：ええ、そうだね。

長男の妻：おじいちゃんは明るい人だったから、亡くなってから気持ちもおちこんじゃってねえ。おばあちゃん。

佐々木：そうだね。亡くなったときは本当に辛かったねえ。

長男の妻：それで、時々もうそろそろお迎えが来てもいいなあなんて話したりして…、私たちまだまだおばあちゃんに長生きしてもらいたいのに。

訪問介護員：ご主人がいなくなってから、お辛いんですね。

佐々木：そうだねえ（少し涙ぐむ）

訪問介護員：お迎えこないかと思ったりしているんですか。

佐々木：あるね。辛い時あるもの。さびしいからね。



訪問介護員：さびしいですね。

お迎えて、具体的にどんなこと考えるんですか。



佐々木：ぽっくりね、亡くなればみんなに迷惑もかけないしと思ったりすることがあるね

訪問介護員：そんな風に思うほどつらかったんですね。その気持ちが強くなったりしますか？



佐々木：それが強くなるってことはないけど、やっぱり悲しいですよ。年取るとね。

訪問介護員：そうですね。ご主人とずっと一緒に過ごしていらっしやったのですから、悲しく思うのも無理ないことですよ。



佐々木：そうなんだよ。

訪問介護員：日中、お話しする相手とかはいらっしゃいますか？ご近所のかたとか、お友達とか？

佐々木：いないねえ。私自身はじいさんについて外でたりしていたから、そんな友達とか多いわけでないしねえ…。

長男の妻：孫も大きくもなったから直接家に帰ってくるので、それもさびしいのかなあと思っていました。それまでおじいちゃん、おばあちゃんに、夕方までは預かってもらってたんですけど…

訪問介護員：そうですね。お孫さんの面倒もみていたんですね。



佐々木：なーに、学校から帰って、テレビみたり、おやつ食べたりしてただけで、なんだりかんだりしていたわけではないんだよ。でも、じいさんもいなくなって、孫も来なくなったりなんで、さびしいね。

訪問介護員：どうしても、一人で過ごす時間が多いと、話し相手もないからさびしいと思う時間もありますよね。



佐々木：そうだね。

長男の妻：おばあちゃん、半年前あたりかなあ、少し薬の飲み間違いあったり、財布の置き場所忘れてたりね…

佐々木：そういえばそうかなあ。

訪問介護員：一人でいると、うっかり忘れててもそのままになったりしますよね。

佐々木：そうなんだね。だから、何忘れていくかわかなくなると、心配だね。

訪問介護員：お話を聞きすると、疲れやすかったり、体調が悪かったり、気持ちも前より沈むこともあるようで、気持ちの元気がなくなっているようですね。少し、物忘れもあるみたいです。



佐々木：そうだね。そんな感じだね。でも大丈夫だよ。

訪問介護員：気持ちもお辛そうですし、相談してもよい状態だと思いますが、どうですか。



佐々木：どうかなあ。

訪問介護員：高血圧で及川先生のところに通っていらっしゃるようですから、相談してみたらどうでしょうか。



佐々木：そんなこと難しくて話せないなあ。

訪問介護員：お嫁さんに付き添っていただいて、一緒にいってみてはいかがでしょうかでしょう。



佐々木：そんなおおごとでないし…

訪問介護員：家族と同伴されて相談されてもいいと思いますよ。

佐々木：そうなの

長男の妻：おばあちゃん、及川先生は優しいし、いつも気にかけてくださってくれるから、相談してみたらいいんじゃない。



佐々木：そうねえ。そうするかねえ。

訪問介護員：皆さん及川先生に同じようなことをご相談されているようですよ。

訪問介護員：また、私たちのところで地域の皆さんが集まって過ごすようなデイサービスもしております。



佐々木：そうなんだ。

訪問介護員：佐々木さんの知っている方々もおいでになっていると思いますよ。

時々いかれてもよいかと思いますが。



佐々木：そうかね。まだ、そこまでいっていないようにも思うけど。

訪問介護員：みなさん、思い思いに時間を過ごされているようですよ。レクリエーションがあったりとか。
ただのんびりすごしていただだけでもいいんですよ。
行かれている方のお話を聞くと、楽しそうになさっているようですよ。



佐々木：そうですか。それではそこまで言うてもらうのなら、ためしに、行ってみようかね。

長男の妻：おばあちゃんも一人で過ごしているよりいいかもしれませんよ。

訪問介護員：見知った人もいらっしゃるかもしれませんね。



佐々木：そうか、それならいいねえ。

長男の妻：おばあちゃんそうしましょう。

訪問介護員：それでは、担当のケアマネージャーさんには、私の方からお伝えしておきますね。ケアマネージャーさんとも相談しながら、少し無理せず、いかれてはいかがでしょうか。

私たちも、今までどおり、食事のお手伝いやお掃除での、日常生活でのお手伝いをさせていただきます。

大変なことがあったら私たちにも相談してくださいね。



佐々木：わかりました。ありがとうございます。

長男の妻：私たちにも相談してね。

佐々木：悪いねえ。

長男の妻：いいんですよ。

訪問介護員：ご家族でもご心配なことがありましたら、相談してください。私の方からもケアマネージャーさんにお伝えしますし、いろいろ考えていただけるとお思いますので、また、様子うかがってもよろしいですか。

佐々木：はい。よろしく願いいたします。また話し相手になってくださいね。

長男の妻：今日はいろいろとありがとうございます。